

月次祭・祖霊大祭 理事長挨拶

「月次祭・祖霊大祭」、おめでとうございます。

七月に入り、昨日は「小暑」を迎え、七夕飾りが夏の訪れを告げていました。

本日は、全国各地からようこそ聖地にご参拝くださいました。

はじめに、ここ数日の未曾有の豪雨により、多くの方々がお亡くなりになり、甚大な被害が発生しています。

本日の「月次祭」の中で、この度の災害に関わるすべての方々のことを、明主様と共にあるメシアの御名にあって、神様に委ねさせていただきました。

本日は、四国・中国を中心に200名以上の方々が、聖地参拝を断念されたと伺っておりますが、私は、こうした方々もご一緒にといいい、本日のご参拝に臨ませていただいております。

只今は、教主様が祭主を務められ、私どものうちに生きておられるすべての先祖の方々と共に、「月次祭」に併せて「祖霊大祭」を真心込めて厳かに執り行わせていただきましたこと、明主様に心より感謝申し上げ、主神をお讃え申し上げたいと存じます。

教主様には、先般の「地上天国祭」にお心こもる「メッセージ」を賜り、また、いつのめ教区の「地上天国祭」にご出座いただきましたこと、さらに本日は、公務誠に多端の中を私どもの祭典にご出座賜りましたこと、誠にありがたいことと心から御礼申し上げます。

そして、本日は、教主夫人であられる岡田まゆみ様と、教主補佐の岡田真明様のご臨席をいただいております。ここでご紹介をさせていただきます。

奥様、教主補佐、どうぞお立ちくださいませ。

ありがとうございます。

また、いつのめ教区の白澤道夫代表も、本日もご参拝になっておりますので、ご紹介させていただきます。

ありがとうございます。

さて、本日は、皆さまに重大なご報告をしなければなりません。

東方之光(MO A)といづのめ教団小林執行部、そして、その庇護のもとにある聖地直結の会は、世界救世教責任役員会と称する根拠のない会合を開き、6月22日付で現在の教主・岡田陽一様の推戴を取り消した旨、教主様に通知

してきました。

また、併せて、教主様とまゆみ奥様、真明様とマミ奥様に対して、「宗家」の資格を失ったことを通知してきました。

さらに、彼らは、教主様と真明様に対して、聖地・瑞雲郷内にある教主様の「執務棟」からの退去を命じ、教主様と真明様、そして、岡田宗家の方々を事実上世界救世教と聖地から追放するという、私どもがかねてより懸念していた信じられない暴挙に出ました。

私ども①之光教団といづのめ教区は、今回の暴挙としか表現のしようのない動きを到底容認することは出来ません。

そもそも、世界救世教管長と称する長澤好之氏をはじめ、包括法人責任役員会と称する人たちは、教団の規則に基づく教主様の認証を得ていない人たちです。

つまり、管長や責任役員の立場にない者たちが、勝手に責任役員会と称する会合を開き、教主様の推戴取り消し等を議決した以外のなにものでもありません。

また、彼らは、「教主様のご教導は御教えに反する」、「教主様のお言葉は異質な思想である」と断じ、御教えには「キリスト教を特に重視しているような言葉は見当たりません」と結論づけています。

彼らは、「メシヤ教はキリスト教と呼応する」、「メシヤ教はよほどキリスト教に近くなる」等の明主様のみ教えを知らないのでしょうか。あるいは、教団の組織や運営にとって都合の悪いみ教えは、葬り去ってしまうつもりなののでしょうか。そして、明主様が、メシアやキリストに関するお歌を100首以上お詠みになっている事実を無視し続けていくのでしょうか。

教主様と真明様をはじめ岡田宗家の方々、そして、①之光教団といづのめ教区を教義違反を理由に教団から追放しようとする前に、彼らには、明主様の信徒として、人間や組織の都合に合わせてみ教えを軽視している姿勢を改めていただきたいと存じます。

そして、同時に、私どもも、自らのうちにある自己本位、人間本位の信仰に少しでも気づき、悔い改めなければならないものと存じております。

今後、彼らは、新たな教主を擁立することは明白であると思われます。すでに、五代教主を擁立しているかもしれません。

そして、教主様の認証や承認が必要な様々な事柄について、責任役員会と称する人たちの意のままになる、明主様のお血筋ではない教主によって、彼

らの思いのままに物事を決定したと主張していくものと思われます。

私は、初代教主であられた明主様から、二代様、三代様、そして、現在の教主様へと連綿と受け継がれてきた“明主様のお血筋”を思う時、教主様のお立場は、本来は人間や組織が決めるものではなく、“神定めのお立場”であると受け止めております。

その上で、勿論、法的にも、世界救世教の規則の面からも、正当な手続きがなされなければならないことは言うまでもありません。

私どもは、「地上天国建設・人類救済・真文明世界の創造」を訴えられた明主様が、最晩年に、人類の救いにとって極めて重大なこととしてお示しになった主神の全く新しい救いのみ業を大切に受け止め、岡田陽一教主様と、その正当な唯一の後継者である教主補佐・岡田真明様とひとつ心で、明主様を模範とし、主神にお仕えさせていただき信仰に向かわせていただきたいと存じます。

さて、本日私どもは「祖霊大祭」を執り行わせていただきましたが、昨年の「祖霊大祭」の折、教主様は次のようにご教導くださいました。

私どもの息は、メシヤの御名にある主神の全く新しい息であります。

この息の中には、主神が全人類をご自身の子・メシアとして新しく生まれさせるために、全人類を分け隔てなく愛し、すべてを赦すという、厳然としたご意志が込められております。

私どもは、この新しい息と共に、メシアの御名にある赦しをお受けし、限りある命を生きるものではなく、主神の永遠の命を受け継がせていただき、主神の子として永遠に生きるものにならせていただきますよう。

教主様は、このように仰せになり、そして最後に、

皆様、ここで今、胸いっぱい大きく息を吸って、主神の全く新しい息を全身の細胞の隅々にまで、手の先、足の先にまでもお受けさせていただきますよう。

そして、吐く息をもって、すべてのものと共に、自分自身を丸ごと捧げる思いで、主神のみもとに立ち返らせていただきますよう。

教主様はこのように、すべての先祖の方々と私どもに呼びかけてくださいました。

私は、先般の「地上天国祭」の折に申し上げましたように、明主様が、全

人類と万物と共に「夜昼転換」と「メシヤ降誕」をお受けになったみ心をもって、私ども一人ひとりにも、「夜の時代」に終わりを告げ、新しくなりなさいと強く願ってくださっているものと信じております。

ですから、私は、明主様と共に私ども自身が「夜昼転換」をお受けし、「メシアの御名」に結ばれ、主神の赦しをお受けしていたことを、「地上天国祭」において、皆さまとご一緒にという思いで神様にご奉告申し上げました。

そして、本日私は、同様に、すべての先祖の方々も明主様と共に「夜昼転換」をお受けし、「メシアの御名」に結ばれ、主神の赦しをお受けしていたことを、先祖の皆さまとご一緒に神様にご奉告申し上げました。

私は、このようにして、明主様と共にあるメシアの御名に結ばれた私どもが、先祖の方々と共に天国に立ち返らせていただき、「祈りの言葉」を中心とした“想念の御用”をもって、主神の全く新しい救いのみ業にお仕えさせていただくことが、真の感謝慰霊の道なのではないかと強く思わせていただいております。

また、私は、5月の「教主様ご巡教 信徒大会」や、先般の㊦之光教団といづのめ教区の「地上天国祭」について、神様が私どもの教団を大きく成長させ、前進させてくださる祭典だったのではないかと、心からの感謝をもって受け止めさせていただきました。

今、㊦之光教団やいづのめ教区に繋がる私ども一人ひとは、明主様と共にあるメシアの御名にあって、神様の子どもとして新しく生まれさせていただく千載一遇の時をお許しいただいているのではないのでしょうか。

私は、「大光明」のご神体奉斎や、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」をはじめ、日常生活のすべての事柄について、私どもが新しく生まれるために神様が用意してくださった“想念の御用”の大切な実践の機会であると受け止めています。

私どもは、自らのうちに、魂と命と意識の故郷である大光明燦然と輝く天国が存在し、本当の命の親である神様が生きておられることを知るといふ、本当の救いに目覚めさせていただきたいと存じます。

そして、この天国の福音をお伝えしていく“全く新しい布教”としてのお導きやお世話に積極的に向かわせていただきましょう。

このようにして、私どもは、私どものうちに生きておられる神様に心を向ける「全く新しい信仰」といふ、明主様が示された真の救いの道を、ご一緒に希望を持って一途に進ませていただきましょう。

それでは、只今より教主様のお言葉を賜ります。

私どもは、本日賜りますご教導を心の中心にお受けし、教主様とひとつ心で、明主様を模範として、主神にお仕えさせていただく真の信仰へと、今年後半も嬉々として向かわせていただきましょう。

教主様のお出ましの前に、大切な時間を賜りましたこと感謝申し上げます。
ありがとうございました。